

## シヨクシヨウ

Zanthoxylum Peel

ZANTHOXYLI PERICARPIUM

蜀椒 花椒 カシヨウ

本品は *Zanthoxylum bungeanum* Maximowicz 又はフユザンシヨウ *Zanthoxylum armatum* De Candolle var. *subtrifoliatum* Kitamura (*Rutaceae*) の成熟した果皮で、果皮から分離した種子をできるだけ除いたものである。

**生薬の性状** 本品は2～3分果よりなるさく果の果皮である。各分果は球形～偏球形を呈し2片に開裂し、各片の径は4.0～6.0 mmである。果皮の外面は淡赤褐色～暗赤褐色又は褐色で、油室による多数のいぼ状の突起があるか、又はほぼ平坦で一部いぼ状の突起が認められる。内面は淡黄白色～淡褐色である。

本品は特異な芳香があり、味は初め僅かに辛く、後に舌を麻痺する。

**確認試験** 本品の粉末2.0 gに水10 mLを加え、5分間振り混ぜた後、ジエチルエーテル5 mLを加えて振り混ぜ、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液5 µLを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン/メタノール/酢酸(100)混液(20:20:1:1)を展開溶媒として約7 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに4-メトキシベンズアルデヒド・硫酸試液を均等に噴霧し、105°Cで5分間加熱するとき、 $R_f$ 値0.3付近に黒褐色のスポットを認める(ヒドロキシ- $\alpha$ -サンシヨオール、ヒドロキシ- $\beta$ -サンシヨオール)。

### 純度試験

- (1) 種子 本品は、異物(5.01)に従い試験を行うとき、種子20.0%以上を含まない。
- (2) 果柄及び枝 本品は、異物(5.01)に従い試験を行うとき、果柄及び枝5.0%以上を含まない。
- (3) 異物(5.01) 本品は種子、果柄及び枝以外の異物1.0%以上を含まない。

灰分(5.01) 9.0%以下。

酸不溶性灰分(5.01) 1.0%以下。

精油含量(5.01) 本品の粉末30.0 gをとり、試験を行うとき、その量は0.6 mL以上である。

貯法 容器 密閉容器。

## ジリュウ

Earthworm  
LUMBRICUS  
地竜

本品は *Pheretima aspergillum* Perrier 又はその他近縁動物 (*Megascolecidae*) の内部を除いたものである。

**生薬の性状** 本品はリボン状の薄片で、長さ 15 ~ 30 cm、幅 1 ~ 2 cm である。外面の背面は黒褐色~紫褐色で、腹面は淡黄褐色で錦紋様を呈する。内面には全面に環紋があり、約 2 mm 間隔の横しわとしてみられる。両端は環状を呈し、その一端は口節で、径約 1 mm の口がある。質は柔軟で、折りにくいだがきれやすい。

本品は特異なおいがあり、味は緩和である。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g に水 10 mL を加え、5 分間超音波処理した後、遠心分離する。上澄液を分液漏斗にとり、1-ブタノール 30 mL を加えて振り混ぜた後、1-ブタノール層を分取し、減圧で溶媒を留去する。残留物をメタノール 1 mL に溶かし、試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 3  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/アセトン/水/酢酸 (100) 混液 (10 : 6 : 3 : 1) を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに 4-メトキシベンズアルデヒド・硫酸試液を均等に噴霧し、105°C で 5 分間加熱するとき、 $R_f$  値 0.4 付近に青色のスポットを認める。

### 純度試験

(1) 重金属 (1.07) 本品の粉末 0.5 g をとり、第 4 法により検液を調製し試験を行う。比較液には鉛標準液 2.5 mL を加える (50 ppm 以下)。

(2) ヒ素 (1.11) 本品の粉末 0.4 g をとり、第 3 法により検液を調製し、試験を行う (5 ppm 以下)。

**乾燥減量** (5.01) 12.0% 以下 (6 時間)。

**灰分** (5.01) 20.0% 以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 16.0% 以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 9.0% 以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ジンギョウ

*Gentiana Macrophylla* Root

GENTIANAE MACROPHYLLAE RADIX

秦艽

本品は *Gentiana macrophylla* Pallas, *Gentiana straminea* Maximowicz, *Gentiana crassicaulis* Duthie ex Burkill 又は *Gentiana dahurica* Fischer (*Gentianaceae*) の根である。

**生薬の性状** 本品はほぼ円錐形を呈し、上部が太く、下部が細く、長さ 6 ~ 30 cm、径 0.5 ~ 4 cm である。根には縦じわがあり、多くはらせん状にねじれる。また、しばしば分枝することもあり、ときに内部が腐朽するものもある。外面は灰黄色~暗褐色を呈し、根頭部に僅かに葉しやうが残るものもある。根の中央部から先端部に細根の跡がある。横切面において木部は円形を呈するか、又は周皮が発達するものでは分断されて幾つかの部分に分かれる。皮部は黄白色~暗褐色、木部は黄白色~黄褐色を呈する。

本品は特異なおいがあり、味は苦く、残留性である。

**確認試験** 本品の粉末 0.5 g にメタノール 10 mL を加え、20 分間振り混ぜ、又は超音波処理した後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフィー用ゲンチオピクロシド 1 mg をメタノール 1 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフィー用シリカゲル(蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/エタノール (99.5)/水混液(8:2:1)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 254 nm)を照射するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは、標準溶液から得たスポットと色調及び  $R_f$  値が等しい。

### 純度試験

(1) 重金属 (1.07) 本品の粉末 3.0 g をとり、第 3 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 3.0 mL を加える(10 ppm 以下)。

(2) ヒ素 (1.11) 本品の粉末 0.40 g をとり、第 4 法により検液を調製し、試験を行う(5 ppm 以下)。

乾燥減量 (5.01) 15.5%以下(6 時間)。

灰分 (5.01) 8.0%以下。

酸不溶性灰分 (5.01) 3.5%以下。

エキス含量 (5.01) 希エタノールエキス 25.0%以上。

貯法 容器 密閉容器。

## ジンコウ

Agarwood

AQUILARIAE RESINATUM LIGNUM

沈香

本品は *Aquilaria agallocha* Roxburgh, *Aquilaria crasna* Pierre, *Aquilaria malaccensis* Lamarck, *Aquilaria sinensis* Gilg 又は *Aquilaria filaria* Merrill (*Thymelaeaceae*) の材, 特にその辺材の材質中に黒色の樹脂が沈着したものである。

**生薬の性状** 本品は灰褐色～黒褐色の不規則な形状の木片で, ところどころに穴や溝を有するものがある。樹脂に富む部分は光沢のある黒点を有する。質は堅く重い。

本品は, 僅かな香気があり, 薫べると芳香を發する。味はやや苦く僅かに刺激性である。

**確認試験** 本品の粉末 0.3 g にメタノール 10 mL を加え, 10 分間振り混ぜ, 又は超音波処理した後, 遠心分離し, 上澄液を試料溶液とする。この液につき, 薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 20  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン混液(2:1)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後, 薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 365 nm)を照射するとき,  $R_f$  値 0.5 付近に青白色の蛍光を發するスポットを認める。

**乾燥減量** (5.01) 11.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 8.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.0%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 8.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ジンコウ末

Powdered Agarwood

AQUILARIAE RESINATUM LIGNUM PULVERATUM

沈香末

本品は局外生規ジンコウを粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は灰褐色～黒褐色を呈し、におい及び味は局外生規ジンコウの規格を準用する。

本品を鏡検〈5.01〉するとき、淡黄色～黒褐色の樹脂の塊や、それらが沈着した柔細胞、孔紋道管の破片及び維管束に長方形の細胞が直交した放射組織の破片を認める。

**確認試験** 局外生規ジンコウの確認試験を準用する。

**乾燥減量** 〈5.01〉 局外生規ジンコウの乾燥減量を準用する。

**灰分** 〈5.01〉 局外生規ジンコウの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分** 〈5.01〉 局外生規ジンコウの酸不溶性灰分を準用する。

**エキス含量** 〈5.01〉 局外生規ジンコウのエキス含量を準用する。

**貯法** 容器 気密容器。

## セイヒ

Immature Citrus Unshiu Peel

CITRI UNSHIU PERICARPIUM IMMATURUS

青皮

本品はウンシュウミカン *Citrus unshiu* Marcowicz 又は *Citrus reticulata* Blanco (*Rutaceae*) の未熟果皮(四花セイヒ)又は未熟果実(個セイヒ)である。

### 生薬の性状

1) 四花セイヒ 本品は長楕円形の通例 4 裂片からなる果皮片で、厚さ 1 ~ 3 mm である。外面は灰緑色~濃緑褐色で、油室による多数の小さなくぼみがある。内面は類白色~黄白色である。質はやや堅い。

本品は特異な芳香があり、味は苦い。

2) 個セイヒ 本品はほぼ球形で、径 1 ~ 2 cm である。外面は灰緑色~濃緑褐色で、油室による多数のくぼんだ小点がある。質は堅く、横切面は周辺が厚さ 1 ~ 4 mm の外果皮及び中果皮からなり、淡黄白色~黄褐色を呈する。中心部は放射状に通例 8 ~ 10 個の小室に分かれ、各室は淡褐色を呈し、くぼむ。

本品は特異な芳香があり、味は苦い。

**確認試験** 本品の粉末 0.5 g にメタノール 10 mL を加え、20 分間振り混ぜ、又は超音波処理した後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフィー用ヘスペリジン 1 mg をメタノール 1 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/アセトン/水/酢酸(100)混液(10:6:3:1)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに塩化鉄(III)・メタノール試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは、標準溶液から得たスポットと色調及び  $R_f$  値が等しい。

**乾燥減量** (5.01) 16.0%以下(6 時間)。

**灰分** (5.01) 6.0%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 9.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## セキショウコン

Acorus Gramineus Rhizome

ACORI GRAMINEI RHIZOMA

石菖根

本品はセキショウ *Acorus gramineus* Solander 又は *Acorus tatarinowii* Shott (*Araceae*) の根茎である。

**生薬の性状** 本品はやや扁平なひも状を呈し、長さ 10 ~ 20 cm、径 0.3 ~ 1.0 cm、僅かに湾曲して、しばしば分枝する。外面は淡黄褐色~黄赤色を呈し、多数の節があり、三角形の葉の跡が左右交互に配列する。節にはしばしば毛状となったりん片葉の跡があり、節間には縦じわがある。下面には根の跡があり、ときには残存する短い根がある。質は堅く、折りやすい。折面は繊維性で、淡黄褐色~灰白色を呈する。

本品は特異な芳香があり、味は清涼で、やや辛く、僅かに麻ひ性である。

**確認試験** 本品の粉末 0.5 g にジエチルエーテル 10 mL を加え、3 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 10  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲル(蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン混液(1:1)を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 254 nm)を照射するとき、 $R_f$  値 0.5 付近に暗紫色の主スポットを認める(アサロン)。

**灰分 (5.01)** 10.0%以下。

**酸不溶性灰分 (5.01)** 1.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## センチ

Cicada Slough

CICADAE PERIOSTRACUM

蟬退 蟬退 センタイ

本品はスジアカクマゼミ *Cryptotympana atrata* Stal, *Platylomia pيلي* Kato, ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis* Distant, *Tanna chekiangensis* Ouchi, *Graptopsaltria tianta* Karsch, *Lyristes pekinensis* Haupt, *Lyristes atrofasciatus* Chou et Lei, コマゼミ *Meimuna mongolica* Distant, ホソヒグラシ *Leptosemia sakaii* Matsumura, ニイニイゼミ *Platyleura kaempferi* Butler 又はそれらの同属動物 (*Cicadidae*) の幼虫のぬけ殻である。

**生薬の性状** 本品は長楕円体，中空で，頭部，胸部，腹部からなり，長さ3～4 cm，幅1.3～2 cm，外面は淡黄褐色，半透明で光沢がある。頭部には前方に半球形の頭，楕円形の頭楯，それにつづく針形の口吻，両側に偏球形の透明な複眼がある。糸状の1対の触覚があり，しばしば脱落している。胸部は背面が縦裂し，内部には白色の繊維状のものがあり，側面の両側の2対の羽は長さ約1.5 cm及び約0.5 cmである。腹面には3対の足があり，前脚は肥大した鎌状であり，中脚と後脚は細長い。腹部の背面は9環節からなり，腹面の中央部は長三角形で階段状の凹凸がある。質は軽く，膜質で破碎しやすい。

本品はほとんどにおい及び味がない。

**灰分** (5.01) 10.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 5.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。



## センナジツ

Senna Pods

SENNAE FRUCTUS

センナ実

本品は *Cassia angustifolia* Vahl 又は *Cassia acutifolia* Delile (*Leguminosae*) の果実である。  
本品は定量するとき、換算した生薬の乾燥物に対し、総センノシド〔センノシド A ( $C_{42}H_{38}O_{20}$  : 862.74) 及びセンノシド B ( $C_{42}H_{38}O_{20}$  : 862.74)] 1.0%以上を含む。

**生薬の性状** 本品は腎形～長楕円形の偏平な豆果で、長さ 3 ～ 6 cm、幅 1 ～ 2.5 cm、外面の辺縁は緑褐色で、中央の種子を含む部分は褐色～黒褐色を呈する。内部に 6 ～ 8 個の種子がある。種子は扁平で三角形を呈し、ルーペ視するとき、網目状の模様を認める。  
本品はにおい及び味がほとんどない。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g にテトラヒドロフラン/メタノール混液(4 : 1) 20 mL 及び希塩酸 1 mL を加え、5 分間振とう抽出した後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。別にセンノシド A 標準品 1 mg をテトラヒドロフラン/水混液(7 : 3) 1 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に 1-プロパノール/酢酸エチル/水/酢酸(100)混液(4 : 4 : 3 : 1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 365 nm) を照射するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは、標準溶液から得た赤色の蛍光を発するスポットと色調及び  $R_f$  値が等しい。

**純度試験 異物 (5.01)** 本品は葉、果軸及びその他の異物 1.0%以上を含まない。

**乾燥減量 (5.01)** 10.0%以下(6 時間)。

**灰分 (5.01)** 8.0%以下。

**酸不溶性灰分 (5.01)** 2.0%以下。

**定量法** 日局センナの定量法を準用する。

**貯法 容器** 密閉容器。

## センナジツ末

Powdered Senna Pods

SENNAE FRUCTUS PULVERATUS

センナ実末

本品は局外生規センナジツを粉末としたものである。

本品は定量するとき、換算した生薬の乾燥物に対し、総センノシド〔センノシド A ( $C_{42}H_{38}O_{20}$  : 862.74)及びセンノシド B ( $C_{42}H_{38}O_{20}$  : 862.74)] 1.0%以上を含む。

**生薬の性状** 本品は淡緑褐色～黒褐色を呈し、におい及び味は局外生規センナジツの規格を準用する。

本品を鏡検〈5.01〉するとき、柵状の外種皮の破片、果皮内面の結晶細胞列を伴う繊維束の破片、主としてらせん紋道管及び網紋道管の破片を認める。まれに、壁孔が明瞭な厚壁細胞、気孔を伴う果皮表皮の破片、でんぷん粒、シュウ酸カルシウムの単晶、及び表面にいぼ状の突起がある単細胞毛を認める。でんぷん粒は単粒又は複粒で、主に径 10  $\mu\text{m}$  以下である。

**確認試験** 局外生規センナジツの確認試験を準用する。

**乾燥減量** 〈5.01〉局外生規センナジツの乾燥減量を準用する。

**灰分** 〈5.01〉局外生規センナジツの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分** 〈5.01〉局外生規センナジツの酸不溶性灰分を準用する。

**定量法** 日局センナの定量法を準用する。

**貯法** 容器 気密容器。

## センレンシ

Melia Fruit

MELIAE FRUCTUS

川楝子

本品はトウセンダン *Melia toosendan* Siebold et Zuccarini 又はセンダン *Melia azedarach* Linné var. *subiripinnata* Miquel (*Meliaceae*) の果実である。

**生薬の性状** 本品はほぼ球形を呈し、径1～3 cmである。一端は少しくぼみ、他端に雌しべの花柱の跡が小さな点として認められる。外面は淡黄緑色～褐色、又は淡黄色～赤褐色で光沢があり、少しくぼんでいるか、又はしわがある。濃褐色、黄褐色又は褐色の斑点がある。

本品は特異なおいがあり、味は初め酸味があり、後に苦い。

**確認試験** 本品の粉末1.0 gにメタノール10 mLを加え、10分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液10  $\mu$ Lを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/メタノール/水混液(15:5:4)を展開溶媒として約7 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長365 nm)を照射するとき、 $R_f$ 値0.5付近(スコポリン)及び0.7付近(スコポレチン)に青色の蛍光を発するスポットを認める。

**純度試験 異物 (5.01)** 本品は果柄及びその他の異物1.0%以上を含まない。

**乾燥減量 (5.01)** 14.0%以下(6時間)。

**灰分 (5.01)** 5.5%以下。

**酸不溶性灰分 (5.01)** 1.0%以下。

**エキス含量 (5.01)** 希エタノールエキス 15.0%以上。

**貯法 容器** 密閉容器。

## ソウズク

Alpinia Katsumadai Seed

ALPINIAE KATSUMADAI SEMEN

草豆蔻 草豆蔻

本品は *Alpinia katsumadai* Hayata (*Zingiberaceae*) の種子の塊である。

**生薬の性状** 本品はほぼ球形を呈し、径 1.3 ~ 3 cm、外面は灰褐色~褐色を呈する。種子塊は薄い黄白色の膜で 3 部に分かれ、各部には仮種皮によって接合する 25 ~ 110 粒の種子がある。種子は卵状の多面体で、長さ 3 ~ 5 mm、径 2.5 ~ 3 mm、外面は淡褐色で膜質の仮種皮に覆われる。厚みのある一端に丸くくぼんだへそ、他端に僅かにくぼんだ合点があり、腹面及び背面にそれぞれ一本の縦溝がある。種子は堅く、断面は灰白色を呈する。

本品は砕くとき特異な芳香があり、味は辛くてやや苦い。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g にメタノール 5 mL を加え、時々振り混ぜながら水浴上で 5 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 5  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン混液(1:1)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに塩化鉄(III)・メタノール試液を均等に噴霧するとき、 $R_f$  値 0.4 付近に淡黄褐色のスポット(カルダモン)と  $R_f$  値 0.55 付近に褐色のスポット(ピノセンブリン)を認める。

**灰分** (5.01) 5.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

**ダイフクヒ**

Areca Pericarp

ARECAE PERICARPIUM

大腹皮

本品はピンロウ *Areca catechu* Linné 又はダイフクピンロウ *Areca dicksonii* Roxburgh (*Palmae*) の果皮である。

**生薬の性状** 本品は紡錘形～長楕円体で、通例、縦割りされている。長さ3～6 cm、径2.5～4 cm、厚さ0.2～0.8 cmである。外面は淡灰褐色～暗褐色を呈し、縦じわがあり、内面は黄褐色～暗褐色を呈し、ややつやがあり、通例、細かい縦じわがある。断面は著しく繊維性である。横切面は淡黄褐色を呈し、ルーベ視するとき、繊維群が淡褐色～暗褐色の点として認められる。本品は僅かに特異なおいがあり、味はほとんどない。

**確認試験** 本品の粉末2.0 gに水30 mL及び塩酸3滴を加え、水浴上で時々振り混ぜながら5分間加温した後、ろ過する。ろ液0.5 mLに水酸化カルシウム試液2.5 mLを加えるとき、液は黄赤色～橙黄色を呈し、放置するとき、黄赤色～橙黄色の綿状沈殿を生じる。

**乾燥減量** (5.0) 11.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.0) 6.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## タラコンピ

Aralia Elata Root Bark

ARALIAE RADICIS CORTEX

タラ根皮

本品はタラノキ *Aralia elata* Seemann (*Araliaceae*) の根皮である。

**生薬の性状** 本品は管状～半管状の皮片で、厚さ 1.0 ～ 2.5 mm である。外面は淡褐色で、周皮は細かいりん片状にはがれやすい。内面は淡褐色を呈する。質はもろく、折りやすい。

本品は弱いにおいがあり、味は僅かに収れん性である。

### 確認試験

(1) 本品の粉末 0.1 g に水 10 mL を加え、激しく振り混ぜるとき、持続性の微細な泡を生じる。

(2) 本品の粉末 0.2 g に無水酢酸 2 mL を加え、水浴上で 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液に硫酸 0.5 mL を穏やかに加えるとき、境界面は赤褐色を呈する。

**乾燥減量** (5.01) 13.0%以下(6 時間)。

**灰分** (5.01) 9.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 2.0%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 17.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## チクジョ

Bamboo Culm

BAMBUSAE CAULIS

竹筴 竹茹

本品は *Bambusa textilis* McClure, *Bambusa pervariabilis* McClure, *Bambusa beecheyana* Munro, *Bambusa tuldoides* Munro, ハチク *Phyllostachys nigra* Munro var. *henonis* Stapf ex Rendle 又はマダケ *Phyllostachys bambusoides* Siebold et Zuccarini (*Gramineae*) の稈の内層である。

**生薬の性状** 本品は薄い帯状で、厚さ 0.5 ~ 3 mm, 淡黄白色~灰白色又は淡緑褐色を呈する。しばしば球状又は束状に整形されている。質は軽く繊維性で、ときに外皮を残存する。

本品はにおいがなく、味はほとんどない。

### 確認試験

(1) 本品の粉末 0.5 g にアセトン 10 mL を加え、水浴上で振り混ぜながら 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液を蒸発乾固し、残留物に無水酢酸 0.5 mL を加えて溶かし、硫酸 1 滴を加えるとき、液は暗緑褐色~褐色を呈する。

(2) 本品の粉末 0.5 g に水 10 mL を加え、水浴上で振り混ぜながら 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液 1 mL にフェノール溶液(1→20) 1 mL を加えてよく振り混ぜた後、硫酸 2 mL を加えて振り混ぜるとき、液は淡褐色~赤褐色を呈する。

**乾燥減量** (5.01) 11.0%以下(6 時間)。

**灰分** (5.01) 3.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## チクヨウ

Bamboo Leaf

PHYLLOSTACHYDIS FOLIUM

竹葉

本品はハチク *Phyllostachys nigra* Munro var. *henonis* Stapf ex Rendle, マダケ *Phyllostachys bambusoides* Siebold et Zuccarini, *Bambusa textilis* McClure 又は *Bambusa emeiensis* L. C. Chia et H. L. Fung (*Gramineae*) の葉である。

**生葉の性状** 本品はひ針形で先端は鋭頭、基部は鋭尖形で、長さ5～16cm、幅1～2cm、上面は青緑色～緑色で無毛、下面は淡緑白色で、ときに、細毛を認める。平行脈があり、特に下面で顕著である。ときに葉柄及び小枝を付ける。

本品はほとんどにおい及び味はない。

**確認試験** 本品の粉末2.0gに希塩酸30mLを加えて振り混ぜ、沸騰水浴中で20分間加熱し、冷後、ろ過する。ろ液にジエチルエーテル5mLを加えて振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液10 $\mu$ Lを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン/酢酸(100)混液(20:20:1)を展開溶媒として約7cm展開した後、薄層板を風乾する。これに4-メトキシベンズアルデヒド・硫酸試液を均等に噴霧し、105 $^{\circ}$ Cで5分間加熱するとき、 $R_f$ 値0.4付近に赤紫色のスポットを認める。

**純度試験** タンチクヨウ 本品の粉末2.0gに希塩酸30mLを加えて振り混ぜ、沸騰水浴中で20分間加熱し、冷後、ろ過する。ろ液にジエチルエーテル5mLを加えて振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液20 $\mu$ Lを薄層クロマトグラフィー用シリカゲル(蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/水/ギ酸混液(10:1:1)を展開溶媒として約7cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長254nm)を照射するとき、 $R_f$ 値0.6～0.7にまとまったスポットを認めない。

**乾燥減量** (5.01) 13.5%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 15.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 11.5%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 9.5%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。



## チクレキ

Bamboo Sap

PHYLLOSTACHYDIS SUCCUS

竹瀝

本品はハチク *Phyllostachys nigra* Munro var. *henonis* Stapf ex Rendle 又はマダケ *Phyllostachys bambusoides* Siebold et Zuccarini (*Gramineae*) の稈を火であぶり、切り口から流れ出た液汁である。

**生薬の性状** 本品は淡青黄色～黄褐色の半透明な液体で、焦げたにおいがあり、僅かに味がある。

**確認試験** 本品 10 mL に水 10 mL 及び1-ブタノール 5 mL を加えて振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー〈2.03〉により試験を行う。試料溶液 5  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/アセトン/水/酢酸(100)混液(10:6:3:1)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに噴霧用バニリン・硫酸・エタノール試液を均等に噴霧し、105°C で 5 分間加熱するとき、 $R_f$  値 0.3 付近に青色のスポットを認める。

**貯法** 容器 気密容器。

## チャヨウ

Green Tea Leaf

CAMELLIAE SINENSIS FOLIUM

茶葉 細茶

本品はチャノキ *Camellia sinensis* Kuntze (*Theaceae*) の葉で、しばしば枝先を伴う。

**生薬の性状** 本品は巻き込んだ棒状又はしわがよって縮んだ葉及びその破片からなり、両面とも淡緑褐色～暗緑色を呈する。水に浸してしわを伸ばすと、葉身は長楕円状披針形で鈍頭、長さ 5～9 cm、幅 2～4 cm、辺縁にきよ歯があり、基部は広いくさび状を呈し、長さ 3～7 mm の葉柄をつける。葉をルーペ視するとき、両面ともに伏毛を認めることがある。枝先の茎は円柱状を呈し、長さ 0.5～3.5 cm、径 0.4～1.5 mm、外面は黄緑色～緑色又は暗緑色である。

本品は特異なおいがあり、味は渋く、苦い。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g にメタノール 10 mL を加え、10 分間振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。別にカフェイン水和物 1 mg をメタノール 1 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフィー用シリカゲル(蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/アセトン/ギ酸混液(10:2:1)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 254 nm)を照射するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは、標準溶液から得たスポットと色調及び  $R_f$  値が等しい。また、これに塩化鉄(III)試液を均等に噴霧するとき、 $R_f$  値 0.6 付近に青色のスポットを認める(エピガロカテキン 3-O-ガレート)。

**乾燥減量** (5.01) 9.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 7.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.0%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 27.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## チンピ末

Powdered Citrus Unshiu Peel

CITRI UNSHIU PERICARPIUM PULVERATUM

陳皮末

本品は日局チンピを粉末としたものである。

本品の定量の規格は、日局チンピの規格を準用する。

**生薬の性状** 本品は淡灰黄色～黄褐色を呈し、におい及び味は日局チンピの規格を準用する。

本品を鏡検〈5.01〉するとき、やや黄色を帯びた柔組織及び無色の柔組織の破片、多角形の表皮細胞からなる表皮の破片、径 10 ～ 30  $\mu\text{m}$  のらせん紋道管、環紋道管、階紋道管、網紋道管及び孔紋道管の破片、丸みを帯びた黄色の塊状物、シュウ酸カルシウムの単晶を認める。シュウ酸カルシウムの単晶は、通例、径 5 ～ 30  $\mu\text{m}$  で、まれに結晶細胞列となる。

**確認試験** 日局チンピの確認試験を準用する。

**純度試験** 総 BHC の量及び総 DDT の量〈5.01〉 日局チンピの純度試験を準用する。

**乾燥減量**〈5.01〉 日局チンピの乾燥減量を準用する。

**灰分**〈5.01〉 日局チンピの灰分を準用する。

**エキス含量**〈5.01〉 日局チンピのエキス含量を準用する。

**定量法** 日局チンピの定量法を準用する。

**貯法 容器** 気密容器。

## テンナンショウ

Arisaema Tuber

ARISAEMATIS TUBER

天南星

本品はマイヅルテンナンショウ *Arisaema heterophyllum* Blume, *Arisaema erubescens* Schott, *Arisaema amurense* Maximowicz 又はその他同属の近縁植物 (*Araceae*) のコルク層を除いた塊茎である。

**生薬の性状** 本品はやや偏圧された球形～不定形を呈し、径 0.7 ～ 3.5 cm、高さ 0.7 ～ 2 cm である。外面は類白色又は淡灰褐色～淡褐色を呈し、上部には茎の跡がくぼみとなり、その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。質は堅い。切面は類白色、粉性である。

本品はほとんどにおいがなく、味は初め緩和で、後にえぐい。

本品の横切片を鏡検 (5.01) するとき、主としてでんぷん粒を充満した柔細胞からなり、粘液道及びシュウ酸カルシウムの東晶を含む粘液細胞を認める。

### 確認試験

- (1) 本品の粉末 0.5 g に水 10 mL を加え、激しく振り混ぜるとき、持続性の微細な泡を生じる。
- (2) 本品の粉末 0.2 g に無水酢酸 2 mL を加え、水浴上で 2 分間加温した後、ろ過する。ろ液に硫酸 0.5 mL を穏やかに加えるとき、境界面は淡褐色を呈する。
- (3) 本品の切面に希ヨウ素試液を滴加するとき、暗青紫色を呈する。

**乾燥減量** (5.01) 13.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 5.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## トウシンソウ

Common Rush

JUNCI HERBA

灯心草 燈心草

本品はイ *Juncus effusus* Linné (*Juncaceae*) の 1) 地上部で、ときに 2) 茎の髄だけのもの(トウシン)がある。

## 生薬の性状

1) 地上部 本品は、通例、茎を横切したもので細い円柱形を呈し、径 1 ~ 3 mm である。外面は淡黄緑色~褐色で、多数の縦線がある。茎の横切面をルーペ視するとき、ほぼ円形で、中央部は海綿状で白色を呈し、周辺部は繊維性で淡黄緑色~淡褐色を呈する。

本品は僅かににおいがあり、味はほとんどない。

本品の茎の横切片を鏡検 (5.01) するとき、表皮細胞は 1 層でクチクラに覆われ、隆起部の表皮下のみには繊維束が発達し、それ以外は 2 ~ 3 細胞層の柔組織からなる。多数の並立維管束が 2 ~ 3 輪の環状に配列し、内側の維管束ほど大きい。節部及び木部の外側に繊維からなる維管束しょうが発達し、しばしば維管束を取り囲む。通例、維管束しょうの周辺に存在する柔細胞のみが残り、維管束間の架橋となる。髄は 4 ~ 8 方向に突出した星形状の柔細胞からなり、それらが連結して網状構造となる。細胞の接合部分では細胞壁が数珠状に肥厚する。

2) 茎の髄 本品は細い円柱形を呈し、径 1 ~ 3 mm である。外面は白色~黄白色で縦溝があり、柔らかく、引っ張ると容易に切れる。断面は白色~黄白色で、海綿状を呈する。

本品はにおい及び味はほとんどない。

本品の横切片を鏡検 (5.01) するとき、4 ~ 8 方向に突出した星形状の柔細胞からなり、それらが連結して網状構造となる。細胞の接合部分では細胞壁が数珠状に肥厚する。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g にメタノール 20 mL を加え、10 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液の溶媒を留去し、残留物をメタノール 1 mL に溶かし、試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフィー用ルテオリン 1 mg をメタノール 1 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10  $\mu$ L ずつを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/2-ブタノン/水/ギ酸混液(25:3:1:1)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 365 nm)を照射するとき、 $R_f$  値 0.4 付近に青白色の蛍光を発するスポットを認める(ルテオリン 3',5-ジメチルエーテル)。また、塩化鉄(III)・メタノール試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち 1 個のスポットは、標準溶液から得た暗緑色のスポットと色調及び  $R_f$  値が等しい。

**乾燥減量** (5.01) 13.0%以下(6 時間)。

**灰分** (5.01) 7.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## トウドクカツ

Angelica Pubescens Root

ANGELICAE PUBESCENTIS RADIX

唐独活 トウドッカツ

本品はシシウド *Angelica pubescens* Maximowicz 又は *Angelica biserrata* Shan et Yuan (*Umbelliferae*) の根である。

**生薬の性状** 本品は短い主根から長い根を分枝してほぼ紡錘状を呈し、長さ 10 ~ 20 cm、外面は褐色~暗褐色である。根頭部には密に隆起した輪節があり、また僅かに茎の残基及び葉しよを残存するものがある。根には縦じわ及び横長に隆起した多数の細根の跡があり、質はやや柔軟である。横切面をルーペ視するとき、淡褐色~暗褐色を呈し、暗褐色の樹脂道がほぼ同心性に配列する。

本品は特異なおいがあり、味は苦くて辛い。

**確認試験** 本品の粉末 0.2 g にエタノール(95) 5 mL を加え、時々振り混ぜながら 5 分間放置した後、ろ過する。ろ液に紫外線(主波長 365 nm)を照射するとき、液は青色~青紫色の蛍光を発する。

**純度試験** 本品の横切片を鏡検(5.01)するとき、コルク石細胞及びシュウ酸カルシウムの集晶を認めない。

**乾燥減量** (5.01) 15.0%以下(6 時間)。

**灰分** (5.01) 9.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

**トウヒ末**

Powdered Bitter Orange Peel

AURANTII PERICARPIUM PULVERATUM

橙皮末

本品は日局トウヒを粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は淡黄褐色～黄褐色を呈し、におい及び味は日局トウヒの規格を準用する。

本品を鏡検 (5.01) するとき、やや黄色を帯びた柔組織及び無色の柔組織の破片、多角形の表皮細胞からなる表皮の破片、径 10 ~ 30  $\mu\text{m}$  のらせん紋道管、環紋道管、階紋道管、網紋道管及び孔紋道管の破片、シュウ酸カルシウムの単晶を認める。シュウ酸カルシウムの単晶は、通例、径 5 ~ 30  $\mu\text{m}$  で、まれに結晶細胞列となる。

**確認試験** 日局トウヒの確認試験を準用する。

**乾燥減量** (5.01) 日局トウヒの乾燥減量を準用する。

**灰分** (5.01) 日局トウヒの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分** (5.01) 日局トウヒの酸不溶性灰分を準用する。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 25.0%以上。

**貯法** 容器 気密容器。

## ドベッコウ

Soft Shell Turtle Carapace

AMYDAE TESTUDO

土別甲

本品はスッポン *Amyda japonica* Temmink et Schlegel 又はシナスッポン *Amyda sinensis* Wiegmann (*Trionychidae*) の背甲である。

**生薬の性状** 本品は不整な皿状に湾曲した広楕円形～卵円形で、長さ 10 ～ 20 cm, 幅 7 ～ 15 cm, 厚さ 1.5 ～ 3 mm, 外面は黒褐色～黒緑色で、中央部は僅かに骨節が隆起し、両側に肋骨様の線紋と細かいしわがある。内面は類白色で中央に隆起した脊椎骨があり、肋骨は 8 対で、左右に突出する。角質で堅く、折りやすい。

本品は特異なおいがあり、味はほとんどない。

**貯法** 容器 密閉容器。



## ナンテンジツ

Nandina Fruit

NANDINAE FRUCTUS

南天実 天竺子

本品はシロミナンテン(シロナンテン) *Nandina domestica* Thunberg forma *leucocarpa* Makino 又はナンテン *Nandina domestica* Thunberg (*Berberidaceae*) の果実である。

**生薬の性状** 本品は球形で、径 7 ~ 9 mm、外面は淡黄色~淡灰褐色又は帯赤褐色を呈する。上部には突起状の花柱の残基があり、下部には点状の果柄の跡がある。果皮は薄く破碎しやすく、内部には 2 ~ 3 個の堅い種子がある。

本品はほとんどにおいがなく、味はやや苦い。

**確認試験** 本品の粉末 1 g に希酢酸 10 mL を加え、水浴上で 5 分間加熱した後、冷後、ろ過する。ろ液 1 滴をろ紙上に滴加し、風乾後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧して放置するとき、黄赤色を呈する。

**純度試験** 異物 (5.01) 本品は果柄及びその他の異物 1.0% 以上を含まない。

**灰分** (5.01) 5.0% 以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## バイモ末

Powdered Fritillaria Bulb

FRITILLARIAE BULBUS PULVERATUS

貝母末

本品は日局バイモを粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は白色～淡黄褐色を呈し、におい及び味は、日局バイモの規格を準用する。

本品を鏡検〈5.01〉するとき、でんぷん粒及びシュウ酸カルシウムの単晶を含む柔細胞並びにそれらの破片、径10～40 $\mu\text{m}$ の主らせん紋道管の破片を認める。でんぷん粒は主に単粒で、径5～60 $\mu\text{m}$ 、層紋が明瞭で、長卵形～卵形又は三角状卵形、まれに2～3個からなる複粒もある。シュウ酸カルシウムの単晶は径2～30 $\mu\text{m}$ である。

**確認試験** 日局バイモの確認試験を準用する。

### 純度試験

- (1) 重金属〈1.07〉 日局バイモの純度試験を準用する。
- (2) ヒ素〈1.11〉 日局バイモの純度試験を準用する。

**乾燥減量**〈5.01〉 日局バイモの乾燥減量を準用する。

**灰分**〈5.01〉 日局バイモの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分**〈5.01〉 日局バイモの酸不溶性灰分を準用する。

**エキス含量**〈5.01〉 日局バイモのエキス含量を準用する。

**貯法** 容器 気密容器。

## ハトムギ

Coix Fruit with Involucre

COICIS FRUCTUS CUM INVOLUCRIS

本品はハトムギ *Coix lacryma-jobi* Linné var. *mayuen* Stapf (*Gramineae*) の果実及び苞しょうである。

**生薬の性状** 本品はほぼ卵球形を呈し、長さ7～14 mm、幅5～9 mm、厚さ4～8 mmである。外面は黒褐色～灰褐色を呈し、つやがあり、細かい縦じまを認める。上端はややとがり、その付近に1個の斜めの孔があり、他端には果柄の跡がある。苞しょうは爪で破碎することができる。中に雄性小穂の花柄、膜質のりん片、2個の退化した小穂及び淡灰褐色～淡黄色でつやのある膜質の5枚の穎に包まれた1個の果実がある。果実は淡褐色～赤褐色で、質は堅い。

本品はほとんどにおいがなく、苞しょうは味が無いが、果実は僅かに甘く、かめば歯間に粘着する。

本品を鏡検(5.01)するとき、苞しょうの横切片では、背軸側最外層は表皮からなり、その内側に厚壁組織が認められる。厚壁組織中の内側の部分には繊維束を伴う維管束が散在する。厚壁組織に続いて内側に横走する繊維が認められ、向軸側最外層は表皮からなる。果実中央部の横切片では、表面最外部には、薄壁性の果皮及び種皮が認められる。くぼみのある腹面に沿って胚盤があり、中央に幼芽しょう又は胚軸が見られる。背面側には胚盤を包む形で胚乳があり、胚乳の柔細胞にはでんぷん粒が含まれる。

**純度試験** 本品20個について、横切し、薄めたヨウ素試液(1→10)に5秒間浸漬した後、取出し、余分な試液を拭き取り、切断面を観察するとき、暗赤褐色を呈し、青紫色を呈するものが6個以内である。青紫色を呈するものが7個又は8個の場合、更に40個の試料について同様に試験を行い、青紫色を呈するものが12個以内の場合、適合とする。

**乾燥減量** (5.01) 14.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 8.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

**ヒシノミ**

Water Chestnut

TRAPAE FRUCTUS

菱実

本品はヒシ *Trapa japonica* Flerov, ヒメヒシ *Trapa insisa* Siebold et Zuccarini 又はメヒシ *Trapa japonica* Flerov var. *rubeola* Ohwi (*Trapaceae*) の果実である。

**生薬の性状** 本品はやや偏平な倒三角形の核果で、長さ 3 ~ 6 cm, 2 又は 4 個の鋭いとげ状の突起がある。外面は黒褐色を呈する。果皮は堅く、内部に 1 個の種子がある。

本品はほとんどにおいがなく、砕くとき、内部は僅かに特異な味がある。

**確認試験** 本品の粉末 0.5 g に無水酢酸 2 mL を加え、よく振り混ぜて 2 分間放置した後、ろ過する。ろ液に硫酸 1 mL を穏やかに加えるとき、境界面は赤褐色を呈し、上層は青緑色 ~ 緑色を呈する。

**乾燥減量** (5.01) 15.0%以下(6 時間)。

**灰分** (5.01) 4.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ビヤッキョウサン

Stiff Silkworm

BOMBYX BATRYTICATUS

白僵蚕 白僵蚕 白姜蚕 白僵蚕

本品はビヤッキョウ菌 *Beauveria bassiana* Vuillemin (*Cordycepitaceae*) に感染して硬直したカイコガ *Bombyx mori* Linné (*Bombycidae*) の幼虫である。

**生薬の性状** 本品は円柱形でところどころにくびれがあり、湾曲するものもある。長さ 2 ~ 5 cm、径 0.3 ~ 1.0 cm である。外面は類白色~黄白色の粉で覆われており、折りやすく、中央部の折面は、光沢のある黒緑色~黒褐色を呈する。

本品は特異なおいがあり、味はやや塩辛い。

**確認試験** 本品の粉末 0.5 g にメタノール 10 mL を加え、10 分間振り混ぜ、又は超音波処理した後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 10  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/酢酸エチル混液(7:3)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 365 nm)を照射するとき、 $R_f$  値 0.45 付近に青白色の蛍光を発するスポットを認める。

**乾燥減量** (5.01) 13.0%以下(6 時間)。

**灰分** (5.01) 8.5%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.0%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 18.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

**ボウイ末**

Powdered Sinomenium Stem and Rhizome

SINOMENI CAULIS ET RHIZOMA PULVERATUM

防己末

本品は日局ボウイを粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は淡褐色～暗褐色を呈し、におい及び味は日局ボウイの規格を準用する。

本品を鏡検 (5.01) するとき、通例、円形～多角形を呈する著しく細胞壁の厚い石細胞、でんぷん粒及びシュウ酸カルシウムの小針晶、柔細胞並びにそれらの破片、径 20 ~ 160  $\mu\text{m}$  の網紋道管及び孔紋道管の破片、径 5 ~ 40  $\mu\text{m}$  の繊維又は繊維束の破片を認める。でんぷん粒は主に単粒で、径 3 ~ 20  $\mu\text{m}$  である。シュウ酸カルシウムの針晶は長さ 3 ~ 30  $\mu\text{m}$  である。

**確認試験** 日局ボウイの確認試験を準用する。

**乾燥減量** (5.01) 11.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 日局ボウイの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分** (5.01) 日局ボウイの酸不溶性灰分を準用する。

**貯法 容器** 気密容器。

## ホップ

Hop Strobile

LUPULI STROBILUS

本品はホップ *Humulus lupulus* Linné (*Moraceae*) の成熟した球果状の果穂である。

**生薬の性状** 本品は広卵形～球形で、長さ 2 ～ 5 cm、径 2 ～ 3 cm、黄緑色又は緑褐色を呈する。中央に穂状花序の軸があり、小花柄ごとに苞葉と小苞が付き、それらが重なって松かさ状を呈する。苞葉と小苞は花序の軸から脱落しやすい。苞葉は卵形、長さ 0.8 ～ 3 cm、幅 0.5 ～ 1 cm、膜質で、向軸面の脈が明瞭である。小苞は苞葉の内側にあり、卵形で、苞葉よりやや小さく、薄く、その基部でそう果を包む。苞葉、小苞の基部及びそう果に橙黄色～褐色の腺体が多数付着する。

本品は特異な芳香があり、味は苦い。

本品の苞葉と小苞の表面を鏡検 (5.01) するとき、表皮細胞の細胞壁は波状を呈し、腺体及び単細胞毛が認められ、柔組織中に径 30  $\mu\text{m}$  以下のシュウ酸カルシウムの集晶が認められる。腺体は多細胞性で、頭部は杯状又は球状で径 100 ～ 250  $\mu\text{m}$ 、分泌物を充満する。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g にメタノール 10 mL を加え、20 分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 10  $\mu\text{L}$  を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン/酢酸(100)混液(7:7:1)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに水酸化カリウム・エタノール試液を均等に噴霧するとき、 $R_f$  値 0.4 付近に黄色のスポットを認める(キサントフモール)。

**純度試験** 異物 (5.01) 本品は、茎、葉及びその他の異物 2% 以上を含まない。

**乾燥減量** (5.01) 15.0% 以下(6 時間)。

**灰分** (5.01) 14.5% 以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 5.0% 以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 20.0% 以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

**マオウ末**

Powdered Ephedra Herb

EPHEDRAE HERBA PULVERATA

麻黄末

本品は日局マオウを粉末としたものである。

本品の定量の規格は、日局マオウの規格を準用する。

**生薬の性状** 本品は淡灰緑色～暗褐色を呈し、におい及び味は日局マオウの規格を準用する。

本品を鏡検 (5.01) するとき、褐色及び無色の柔組織の破片、長方形の表皮細胞からなる表皮の破片、繊維、繊維群、通例径 5 ~ 25  $\mu\text{m}$  のらせん紋道管及び孔紋道管、ときに仮道管の破片を認める。また、シュウ酸カルシウム単晶及び砂晶を認める。

**確認試験** 日局マオウの確認試験を準用する。

**乾燥減量** (5.01) 日局マオウの乾燥減量を準用する。

**灰分** (5.01) 日局マオウの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分** (5.01) 日局マオウの酸不溶性灰分を準用する。

**定量法** 日局マオウの定量法を準用する。

**貯法** 容器 気密容器。



## マンケイシ

Shrub Chaste Tree Fruit

VITICIS FRUCTUS

蔓荆子 蔓荊子

本品はハマゴウ *Vitex rotundifolia* Linné filius 又はミツバハマゴウ *Vitex trifolia* Linné (*Verbenaceae*) の果実である。

**生薬の性状** 本品は球形～倒卵球形で、径 3 ～ 7 mm、外面は灰黒色～灰褐色を呈する。通例、下半は灰白色の薄いがくで覆われ、短い果柄を残存することがある。果実の内部は 4 室に分かれ、各室に 1 個の種子がある。

本品は特異なおいがあり、味は僅かに辛い。

**確認試験** 本品の粉末 0.5 g にメタノール 10 mL を加えてよく振り混ぜた後、ろ過する。ろ液 5 mL にリボン状のマグネシウム 0.1 g 及び塩酸 0.3 mL を加えて放置するとき、液は淡赤色～赤紫色を呈する。

### 純度試験

(1) 果柄及び葉 本品は果柄及び葉 4.0%以上を含まない。

(2) 異物 (5.01) 本品は果柄及び葉以外の異物 1.0%以上を含まない。

**乾燥減量** (5.01) 12.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 9.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 3.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## メリロート

Melilot

MELILOTI HERBA

セイヨウエビラハギ

本品はセイヨウエビラハギ *Melilotus officinalis* Lamarck (*Leguminosae*) の地上部である。本品は定量するとき、換算した生薬の乾燥物に対し、クマリン( $C_9H_6O_2$ : 146.15) 0.3%以上を含む。

**生薬の性状** 本品は主に茎及び花柄からなり、通例、切断され、葉はほとんど脱落している。茎は円柱形を呈し、長さ4～30 cm、径1～3 mmで、しばしば分枝する。外面は緑色～黄褐色で、細い稜がある。葉は三出複葉で、葉柄をつけ、小葉の辺縁にきょ歯がある。総状花序は約5 cm、蝶形花は長さ2～7 mm、がく片は有毛である。果実は楕円形、黄褐色～褐色で先端が尖り、表面に網目状のしわがあり、1個の種子を含む。

本品は特異なおいがあり、味は僅かに苦い。

**確認試験** 本品の粉末1.0 gに薄めたエタノール(7→10) 10 mLを加え、10分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液10  $\mu$ Lを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン混液(1:1)を展開溶媒として約7 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに水酸化カリウム・エタノール試液を均等に噴霧し、10分間放置した後、紫外線(主波長365 nm)を照射するとき、 $R_f$ 値0.55付近に青緑色の蛍光を発するスポットを認める(クマリン)。

**純度試験** 異物(5.01) 本品は、異物2.0%以上を含まない。

**乾燥減量** (5.01) 12.0%以下(2時間)。

**灰分** (5.01) 10.0%以下。

**定量法** 本品の粉末約2.0 gを精密に量り、メタノール50 mLを加え、還流冷却器を付けて水浴上で30分間加熱し、冷後ろ過する。残留物は、メタノール30 mLを加え、同様に操作する。全ろ液を合わせ、メタノールを加えて正確に100 mLとし、試料溶液とする。別に定量用クマリン約10 mgを精密に量り、メタノールに溶かして正確に100 mLとする。この液10 mLを正確に量り、メタノールを加えて正確に20 mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液10  $\mu$ Lずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフィー(2.01)により試験を行い、それぞれの液のクマリンのピーク面積 $A_T$ 及び $A_S$ を測定する。

$$\text{クマリン}(C_9H_6O_2)\text{の量 (mg)} = M_S \times A_T / A_S \times 1/2$$

$M_S$ : 定量用クマリンの秤取量(mg)

## 試験条件

検出器: 紫外吸光光度計(測定波長: 273 nm)

カラム: 内径4～6 mm、長さ15～25 cmのステンレス管に5～10  $\mu$ mの液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充填する。

カラム温度: 40°C付近の一定温度

移動相: 水/アセトニトリル/酢酸(100)混液(750:250:1)

流量：クマリンの保持時間が約 12 分になるように調整する。

システム適合性

システムの性能：標準溶液 10  $\mu\text{L}$  につき、上記の条件で操作するとき、クマリンのピークの理論段数及びシンメトリー係数は、それぞれ 5000 段以上、1.5 以下である。

システムの再現性：標準溶液 10  $\mu\text{L}$  につき、上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき、クマリンのピーク面積の相対標準偏差は 1.5% 以下である。

貯法 容器 密閉容器。

クマリン、定量用  $\text{C}_9\text{H}_6\text{O}_2$  無色又は白色～微褐色の結晶で、特異な芳香がある。メタノール又はエタノール(99.5)にやや溶けやすく、水にほとんど溶けない。

吸光度 (2.24)  $E_{1\text{cm}}^{1\%}$  (273 nm) : 735 ~ 760 (5 mg, メタノール, 1000 mL).

確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法 (2.25) の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 1705  $\text{cm}^{-1}$ , 1604  $\text{cm}^{-1}$ , 1487  $\text{cm}^{-1}$  及び 1259  $\text{cm}^{-1}$  付近に吸収を認める。

純度試験 類縁物質 本品 5 mg をメタノール 50 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、メタノールを加えて正確に 100 mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 10  $\mu\text{L}$  ずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフィー (2.01) により試験を行う。それぞれの液の各々のピーク面積を自動積分法により測定するとき、溶媒ピークの面積を除いた試料溶液のクマリン以外のピークの合計面積は、標準溶液のクマリンのピーク面積より大きくない。

試験条件

検出器：紫外吸光光度計(測定波長 273 nm)

カラム：内径 4.6 mm, 長さ 15 cm のステンレス管に 5  $\mu\text{m}$  の液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充填する。

カラム温度：40 $^{\circ}\text{C}$  付近の一定温度

移動相：水/アセトニトリル/酢酸(100)混液(750 : 250 : 1)

流量：クマリンの保持時間が約 12 分になるように調整する。

面積測定範囲：溶媒のピークの後からクマリンの保持時間の約 3 倍の範囲

システム適合性

システムの性能：標準溶液 10  $\mu\text{L}$  につき、上記の条件で操作するとき、クマリンのピークの理論段数及びシンメトリー係数は、それぞれ 5000 段以上、1.5 以下である。

## メリロートエキス

### Melilot Extract

本品は定量するとき、クマリン( $C_9H_6O_2$ : 146.15)として、0.6 ~ 1.8%を含む。

**製法** 適切な大きさとした局外生規メリロートを取り、30 vol%エタノールを浸出剤として、日局製剤総則エキス剤の製法により軟エキスとして製する。

**性状** 本品は褐色～暗褐色の軟エキスで、特異な芳香があり、味は僅かに苦い。  
本品は水に混濁して溶ける。

### 確認試験

(1) 定量法で得た試料溶液につき、紫外可視吸光度測定法 (2.24) により吸収スペクトルを測定するとき、波長 272 ~ 276 nm に吸収の極大を示す。

(2) 本品 0.1 g に薄めたエタノール(7→10) 5 mL を加え、攪拌後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。以下、局外生規メリロートの確認試験を準用する。

### 純度試験

(1) 重金属 (1.07) 本品 1.0 g をとり、日局製剤総則エキス剤(4)に従い検液を調製し、試験を行う(30 ppm 以下)。

(2) ヒ素 (1.11) 本品 1.0 g をとり、第 4 法により検液を調製し、試験を行う(2 ppm 以下)。

**乾燥減量** (2.41) 28.0%以下(2 g, 105°C, 6 時間)。

**灰分** (5.01) 15.0%以下(2 g)。

**定量法** 本品約 1.0 g を精密に量り、水に溶かし、正確に 100 mL とする。この液 10 mL を正確に分液漏斗にとり、ジエチルエーテル 25 mL ずつで 6 回抽出する。抽出中に乳濁物が生じた場合は、メタノール数滴を加えて溶かす。全ジエチルエーテル抽出液を合わせ、無水硫酸ナトリウム 5 g を加えてよく振り混ぜ、脱脂綿を用いてろ過する。容器及び脱脂綿上の無水硫酸ナトリウムをジエチルエーテル 15 mL ずつで 3 回洗い、ろ過する。全ろ液を合わせ、減圧留去し、残留物にメタノールを加えて溶かし、正確に 200 mL とし、試料溶液とする。別に定量用クマリン約 0.10 g を精密に量り、メタノールに溶かし、正確に 1000 mL とする。この液 5 mL, 10 mL 及び 15 mL を正確にとり、メタノールを加えて、それぞれ正確に 200 mL とし、標準溶液(1)、標準溶液(2)及び標準溶液(3)とする。これらの液につき、紫外可視吸光度測定法 (2.24) により試験を行い、波長 273 nm における吸光度  $A_T$ ,  $A_{S1}$ ,  $A_{S2}$  及び  $A_{S3}$  を測定する。標準溶液から得た検量線を用いて、試料溶液 200 mL 中のクマリン含量(mg)を求める。

**貯法** 容器 気密容器。

## モッカ

Chaenomeles Fruit

CHAENOMELIS FRUCTUS

木瓜

本品は 1) カリン *Chaenomeles sinensis* Koehne の偽果(光皮モッカ)又は 2) ボケ *Chaenomeles speciosa* Nakai (*Rosaceae*) の偽果(皺皮モッカ)である。

### 生薬の性状

1) 光皮モッカ 本品は楕円体～卵形体を、通例、縦割りした形を呈し、長さ 6.5 ～ 10 cm, 幅 3.5 ～ 5.0 cm, しばしば横切したものもある。外面は赤褐色～暗褐色を呈し、果肉の断面は赤褐色～黄褐色で顆粒状の斑点がある。果肉の厚さは 1 ～ 2 cm で、内部には隔壁があり、これに多数の種子が付くか、又はしばしば脱落して中空となる。種子は扁平なほぼしづく形で、長さ 0.5 ～ 1.0 cm, 幅 0.2 ～ 0.5 cm, 堅く、暗褐色を呈する。

本品は特異なおいがあり、酸味があり収れん性である。

本品の横切片を鏡検 (5.01) するとき、最外層はクチクラで覆われた表皮からなる。果肉には多数の石細胞があり、外辺部から中層部では単独又は不定形の石細胞群をなし、内辺部では更に大きな群となる。

2) 皺皮モッカ 本品は楕円体～卵形体を、通例、縦割りした形を呈し、長さ 4 ～ 9 cm, 幅 2 ～ 5 cm, しばしば横切したものもある。外面は赤紫色～赤橙色を呈し、不規則な深い皺がある。果肉の断面は赤褐色～黄褐色で辺縁が縮んで内側に巻く。内部には隔壁があり、これに多数の種子が付くか、又はしばしば脱落して中空となる。種子は扁平な三角形で、長さ 0.5 ～ 1.0 cm, 幅 0.2 ～ 0.5 cm, 堅く、暗褐色を呈する。

本品は特異なおいがあり、酸味があり収れん性である。

本品の横切片を鏡検 (5.01) するとき、最外層は厚いクチクラで覆われた表皮からなる。果肉の外辺部には不定形の石細胞があり、内辺部には通例大きな石細胞群が見られるが、果肉の中層部には石細胞は認められない。

**確認試験** 本品の粉末 1 g に水 10 mL を加え、水浴上で時々振り混ぜながら 10 分間加熱した後、ろ過する。ろ液に塩化鉄(III)試液 1 滴を加えるとき、液は汚緑色を呈する。

**乾燥減量** (5.01) 12.0%以下(6 時間)。

**灰分** (5.01) 5.0%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 18.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ヨウバイヒ

Myrica Rubra Bark

MYRICAE CORTEX

楊梅皮

本品はヤマモモ *Myrica rubra* Siebold et Zuccarini (*Myricaceae*) の樹皮である。

**生薬の性状** 本品は巻き込んだ管状、半管状又は板状の皮片で、厚さ1～5 mmである。外面は灰褐色を呈し、浅い縦の裂け目と縦列する小さな皮目があり、内面は暗褐色を呈し、なめらかである。折りやすく、折面は赤褐色で粒状である。

本品はほとんどにおいがなく、味は渋くて苦い。

本品の横切片を鏡検(5.01)するとき、コルク層は多層のU字状に厚壁化したコルク細胞からなり、二次皮層には繊維群が散在し、外側に多数の石細胞が散在する。柔細胞中にでんぷん粒及び黒褐色～褐色の内容物を含む。また、皮層には、しばしば黄赤色のタンニン様物質を認める。しばしば繊維群に隣接して、シュウ酸カルシウムの単晶を含む細胞が認められ、縦切片では結晶細胞列となる。

**確認試験** 本品の粉末0.1 gにメタノール10 mLを加え、水浴上で時々振り混ぜながら5分間加温し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液5 µLを薄層クロマトグラフィー用シリカゲル(蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/メタノール/水/ギ酸混液(12:2:1:1)を展開溶媒として約7 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長254 nm)を照射するとき、 $R_f$ 値0.55付近に主スポットを認める(ミリシトリン)。

**乾燥減量** (5.01) 13.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 4.0%以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 35.0%以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ヨウバイヒ末

Powdered Myrica Rubra Bark

MYRICAE CORTEX PULVERATUS

楊梅皮末

本品は局外生規ヨウバイヒを粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は灰赤褐色を呈し、ほとんどにおいがなく、鼻粘膜を刺激する。味は、局外生規ヨウバイヒの規格を準用する。

本品を鏡検〈5.01〉するとき、石細胞、繊維、柔細胞、U字状に厚壁化したコルク細胞、シュウ酸カルシウムの単晶及びでんぷん粒を認める。石細胞は、不整の多角形～円形で、長径50～200 $\mu\text{m}$ 、細胞壁の厚さ3～25 $\mu\text{m}$ で、孔紋及び層紋が明瞭である。柔細胞中にでんぷん粒を含む。でんぷん粒は、径4～7 $\mu\text{m}$ の単粒又は2～3個の複粒である。また、柔細胞及び石細胞中には、しばしば黄赤色のタンニン様物質を認める。繊維は、細胞壁の厚さ5～6 $\mu\text{m}$ で孔紋のあるものと細胞壁の厚さ約2 $\mu\text{m}$ で斜めの壁孔の明らかなものがあり、前者はしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む結晶細胞列を伴う。シュウ酸カルシウムの単晶は、径10～30 $\mu\text{m}$ である。

**確認試験** 局外生規ヨウバイヒの確認試験を準用する。

**乾燥減量**〈5.01〉 局外生規ヨウバイヒの乾燥減量を準用する。

**灰分**〈5.01〉 局外生規ヨウバイヒの灰分を準用する。

**酸不溶性灰分**〈5.01〉 1.0%以下。

**エキス含量**〈5.01〉 局外生規ヨウバイヒのエキス含量を準用する。

**貯法** 容器 気密容器。

**ランオウ末**

Dried Egg Yolk Powder

Vitellus

卵黄末 鶏子黄末

本品はニワトリ *Gallus gallus* Brisson subsp. *domesticus* Brisson (*Phasianidae*) の卵黄を乾燥して粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は、黄色～黄橙色の粉末で、特異なおい及び味がある。

**確認試験** 本品 1.0 g にメタノール 20 mL を加えて 20 分間振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 2  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン混液(3:2)を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに 4-メトキシベンズアルデヒド・硫酸試液を均等に噴霧し、105℃で 2 分間加熱するとき、 $R_f$  値 0.5 付近に暗青色のスポットを認める。

**乾燥減量** (5.01) 4.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 7.0%以下。

**貯法** 容器 気密容器。



## リヒ

Plum Bark

PRUNI SALICINAE CORTEX

李皮 李根皮 李根白皮 リコンピ リコンハクヒ

本品はスモモ *Prunus salicina* Lindley (*Rosaceae*) の樹皮又は根皮である。

**生薬の性状** 本品は板状又は半管状の皮片で、厚さ2～5mmである。外面は灰褐色～黒褐色を呈し、粗雑である。ときに周皮が脱落し赤褐色を呈することもある。内面は平滑で、淡黄白色～赤褐色を呈する。折面は淡黄白色～淡褐色を呈し、繊維性である。

本品は弱いにおいがあり、味は苦く、渋い。

**確認試験** 本品の粉末1.0gに希塩酸10mLを加えて振り混ぜ、沸騰水浴中で10分間加熱し、冷後、ジエチルエーテル5mLを加えて10分間振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液10 $\mu$ Lを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/ヘキサン/酢酸(100)混液(20:20:1)を展開溶媒として約7cm展開した後、薄層板を風乾する。これに噴霧用バニリン・硫酸・エタノール試液を均等に噴霧し、105 $^{\circ}$ Cで5分間加熱するとき、 $R_f$ 値0.5付近に橙色のスポットを認める(2,6-ジヒドロキシ-4-メトキシアセトフェノン)。

**乾燥減量** (5.01) 13.0%以下(6時間)。

**灰分** (5.01) 9.0%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## レンギョウ末

Powdered Forsythia Fruit

FORSYTHIAE FRUCTUS PULVERATUS

連翹末 連堯末

本品は日局レンギョウを粉末としたものである。

**生薬の性状** 本品は、淡黄褐色～暗褐色を呈し、においては日局レンギョウの規格を準用し、味は僅かに苦く、収れん性である。

本品を鏡検〈5.01〉するとき、褐色及び無色の柔組織の破片、石細胞、繊維及び線維束の破片、主としてらせん紋道管及び網紋道管の破片、表皮の破片を認める。ときに径15～35µmのでんぷん粒、径10～30µmのシュウ酸カルシウムの集晶を認めることがある。

**確認試験** 日局レンギョウの確認試験を準用する。

**灰分**〈5.01〉日局レンギョウの灰分を準用する。

**エキス含量**〈5.01〉日局レンギョウのエキス含量を準用する。

**貯法** 容器 気密容器。

## ワキョウカツ

Aralia Root

ARALIAE CORDATAE RADIX

和羌活 和羌活

本品はウド *Aralia cordata* Thunberg (*Araliaceae*) の根である。

**生薬の性状** 本品はやや湾曲した円柱形～長円錐形を呈し、しばしば周皮を除いたものがあり、長さ5～15 cm、径0.5～1.5 cmである。外面は灰褐色を呈し、多数の縦じわがあり、皮目及び細根の跡が散在する。周皮を除いたものは、外面は灰白色を呈する。質は軽くやや柔軟で折りやすく、折面はやや繊維性である。横切面をルーペ視するとき、形成層付近は褐色、皮部は淡褐色を呈し、皮部には油道による褐色の細点を認める。

本品は特異なおいがあり、味は僅かに苦い。

**確認試験** 本品の粉末1.0 gにメタノール10 mLを加え、5分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液5  $\mu$ Lを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/酢酸エチル/酢酸(100)混液(30:10:1)を展開溶媒として約7 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに噴霧用バニリン・硫酸・エタノール試液を均等に噴霧し、105°Cで5分間加熱するとき、 $R_f$ 値0.5付近に紫色のスポットを認める。

**灰分 (5.01)** 7.0%以下。

**酸不溶性灰分 (5.01)** 1.0%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ワコウホン

Osmorhiza Rhizome

OSMORHIZAE RHIZOMA

和薬本

本品はヤブニンジン *Osmorhiza aristata* Makino et Yabe (*Umbelliferae*) の根茎である。

**生薬の性状** 本品は仮軸分枝した根茎からなり、全長2～8 cm、各分枝は円柱形を呈し、径0.5～1.5 cm、各先端には円形にへこんだ茎の跡があるか、又は短い茎の残基を付ける。外面は灰褐色～褐色を呈し、輪節及び縦じわがあり、こぶ状の根の残基が多数ある。また、径2～5 mmの短い根を僅かに付ける場合もある。質は軽く、やや折りやすい。

本品は特異なおいがあり、味は初め僅かに甘く、後にやや辛い。

**確認試験** 本品の粉末0.5 gにヘキサン5 mLを加え、時々振り混ぜながら15分間放置した後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を行う。試料溶液10 µLを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/酢酸エチル混液(4:1)を展開溶媒として約10 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに希硫酸を均等に噴霧し、105℃で5分間加熱するとき、 $R_f$ 値0.5付近に赤色～赤紫色のスポット及び、通例、その上辺部に重なった淡青色のスポットを認める。

**灰分** (5.01) 6.5%以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 1.5%以下。

**貯法** 容器 密閉容器。

## ワニクジュヨウ

Boschniakia Herb  
BOSCHNIAKIAE HERBA  
和肉菴蓉 和肉菴蓉

本品はオニク *Boschniakia rossica* B. Fedtschenko (*Orobanchaceae*) の全草である。

**生薬の性状** 本品は偏平な円柱形で、長さ 3 ~ 30 cm、径 2 ~ 8 cm である。根茎は太い塊状である。外面は黄褐色~黒褐色を呈し、三角形のりん片葉に密に覆われる。茎の先端には卵形ないし円柱形の花穂が付く。質はもろい。横切面は黄褐色~黒褐色、維管束が輪状に並び、不連続な環状を呈する。

本品はにおいがなく、味は僅かに甘く、後に僅かに苦い。

本品の中央部横切片を鏡検 (5.01) するとき、最外層はクチクラで覆われた表皮からなる。表皮細胞は 1 層からなる。皮層は柔組織からなり、細胞間に空隙がみられる。皮層の内側には維管束のように囲まれた楕円形~長楕円形の並立維管束が不連続な環状に配列する。髄は柔組織からなり、細胞間に空隙がみられる。

**確認試験** 本品の粉末 1.0 g に水 5 mL 及び 1-ブタノール 5 mL を加え、15 分間振り混ぜた後、遠心分離し、1-ブタノール層を試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフィー (2.03) により試験を行う。試料溶液 5  $\mu$ L を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次に酢酸エチル/メタノール/水混液 (20 : 3 : 2) を展開溶媒として約 7 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに 2,6-ジブromo-N-クロロ-1,4-ベンゾキノノンモノイミン試液を均等に噴霧し、アンモニアガス中に放置するとき、 $R_f$  値 0.2 付近に灰緑色のスポット (ロシカシド B)、 $R_f$  値 0.3 付近に青色のスポット (ボシュナロシド) を認める。

**乾燥減量** (5.01) 23.0% 以下 (6 時間)。

**灰分** (5.01) 11.0% 以下。

**酸不溶性灰分** (5.01) 2.0% 以下。

**エキス含量** (5.01) 希エタノールエキス 35.0% 以上。

**貯法** 容器 密閉容器。

